

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生徒たちが『入学してよかった』と思える学校、保護者に『入学させてよかった』と認めていただける学校、卒業生が素晴らしい『母校』と思える学校、地域の方に『一緒にがんばろう』と認めていただける学校」をめざす。

- 1 生徒の自己実現に向けた教育活動により、夢と志を持った生徒を育成する。（目標あるキャリア教育）
- 2 人権尊重の精神に基づいて、モラルやマナー面での社会的な人間力を育てる。（人権教育をふまえた社会的実力の育成）
- 3 地域や保護者等との信頼に基づいた連携関係を構築して教育活動を展開する。（社会に開かれた学校づくり）

2 中期的目標

1 確かな学力の定着

- (1) 工夫ある計画的な展開やICTを活用した授業の拡充等により魅力ある授業づくりを推進し、学びの意欲を高め基礎学力の定着を図る。
- (2) 授業研究委員会を核に「SK勉強会」などの授業研修を実施することで校内の研究授業等を充実させ、経験の多少によらず授業力の向上を図る。
*生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い。」(R1:64.3%, R2:69.5%, R3:87.7%) に関して令和6年度まで85%超を維持する。
*生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい。」(R1:57.1%, R2:63.6%, R3:81.1%) に関して令和6年度には85%をめざす。

2 多様な進路の実現

- (1) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立し、早期に進路目標を意識させる指導を行う。
*生徒が卒業後に自己実現に向けての準備をするケースを除いて、進路未決定率 (R1:4.4%, R2:3.4%, R3:4.4%) に関して令和6年度には2%をめざす。
*大学進学を希望する生徒に力をつけて、令和6年度には一般的な難関私立大学・国公立大学にチャレンジする生徒5名以上を育てることをめざす。

3 社会に貢献する人材の育成

- (1) 基本的生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。
ア 社会的なモラルやマナーを遵守することの大切さを理解させて、社会的な実力を育成する。
イ スクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) を活用した教育相談体制を確立させ、個々の生徒への支援体制を充実させる。
*生徒向け学校教育自己診断における生活規律等基本的習慣の指導確立項目 (R1:66.4%, R2:72.3%, R3:86.6%) に関して令和6年度まで85%超を維持する。
*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目における満足度 (R1:63.7%, R2:65.0%, R3:78.3%) に関して令和6年度には80%をめざす。
- (2) 特別活動や部活動を充実させ生徒の参加を促進することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに、学校への帰属意識を高める。
ア 学校行事や部活動において、生徒の自主性を高めるとともに、集団の中で他と調和しながら行動する能力を育成する。
イ 「堺上高杯」等において地域や小中学校とのさらなる連携を図ることを通して、生徒に自尊心とボランティア精神を育む。
*生徒向け学校教育自己診断における行事に対する満足度 (R1:67.9%, R2:70.9%, R3:77.7%) に関して令和6年度には80%をめざす。
*生徒の入部率を (R1:41.2%, R2:44.7%, R3:46.5%) を毎年1ポイント以上引き上げ、令和6年度には50%をめざす。

4 校内運営体制の改善と人材の育成

- (1) 組織業務の見直しを行い、精選と簡素化、業務量の検討を行なうことで体制の強化と「働き方改革」に即した労働時間の適正化を図る。
- (2) 本校独自の「SKミーティング」「SK勉強会」等を開催し、教員力育成事業を推進することにより育成システムを構築する。

5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進

- (1) 地域の中学校等への広報の充実に努め、更なる連携を推進する。
*知名度を高め魅力を発信すべく「堺上高杯」への参加校及び中学生数 (R1:33校758名, R2:中止, R3:31校600名) に関して、新規の参加校開拓などをしながら令和6年度まで同水準の数値を維持することをめざす。
- (2) 保護者が積極的にPTA活動に参加できるよう、PTA活動内容の精査を行いさらなる充実を図ることにより、学校の教育活動への理解を深める。
*PTA主催の研修への参加率 (R1:50.0%, R2:66.7%, R3:67.5%) に関して、令和6年度には70%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導について】 ・「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定回答は82.8% (4.9%↓)、「授業は、わかりやすく楽しい」は75.5% (5.6%↓)とやや減少しているが、生徒向け授業アンケートにおいては全項目で肯定評価が向上した。学習内容に達成感を持たせることができるような授業づくりに全教員で取り組んできた結果といえる。生徒端末をはじめとするICTを活用しながら、一斉学習と個別及び協働学習を組み合わせ、わかりやすく質の高い授業づくりを組織的に推進していく。</p> <p>【生徒指導について】 ・生徒の生徒指導に関する認識「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力をいれている」の肯定回答は83.2%、「学校生活についての先生の指導は納得できる」は71.2%となっている一方で、保護者対象の項目「学校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定回答は68.5%と生徒の回答に比べてやや低い。「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育成する」とった本校の方針を保護者にも理解していただき、協力を得ながら指導を進めていきたい。</p> <p>【進路指導について】 ・生徒対象項目「将来の進路や生き方について考える機会がある」「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定回答は共に86%超えとなっている。今年度は保護者向け進路説明会を実施することができ、保護者対象項目「将来の進路や職業についての指導」「進路に関して家庭への連絡や適切な情報提供」の肯定回答が共に増加した。多様な進路を保障するためにも進路指導の充実を図っていく。</p> <p>【生徒会活動について】 ・今年度は学校行事を予定通り実施することができたこともあり、生徒会活動の肯定回答が増えた。新入生の入部率も50%を超えた。部活動や生徒会活動は生徒の自主性を伸ばし、社会的な実力の育成に資する重要な活動だととらえている。本校の魅力のひとつとなるよう、「堺上高杯」をはじめとする取組みの充実を図っていく。</p>	<p>第1回 (6/24) ○堺上高校のミッションについて ・パラエティーに富んだ進路先を選べるようなカリキュラムと体制が取れているのがこの高校の強みであり特色である。 ・個々の生徒の伴走者のような形で子どもと寄り添って進路指導してもらえる学校だと認識しているし、そんな学校であってほしい。 ・地域とのコミュニケーションをベースに、今やっていることをもう少し広げて、生徒さんの人格形成に携わるような教育をしていってほしいと思う。</p> <p>第2回 (10/27) ○スクール・ミッションの策定と内容について ・堺上高校の実態を踏まえて、きちっと必要な文言が入っている。教育の目標は自己実現だと思うので、とてもいいと思う。 ・とてもわかりやすい。みんなで共有し、納得感をもって全体でめざしていくことが大切だと思う。 ○学習評価と授業改善について ・観点別というのは定性評価の部分の評価し、気持ちとか勢いとか姿勢を評価し、資質を育てるということだと思う。コミュニケーション量を増やさないで評価しにくいだろう。定量的な小テストというより、考えや意見をアウトプットさせる取組みが必要かと思う。</p> <p>第3回 (2/20) ○広報活動について ・学校が良い方向に進んでいるという印象がある。HPのアクセス数が減少したのは、在校生がこれまでHPから得ていた情報を、支援クラウドサービスを活用し直接配信できるようになったためなので、マイナスイメージはない。 ・ただ、HPは広報活動の重要な位置づけだと思うので、戦略を明確にした情報発信の在り方を検討していく必要がある。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着	<p>(1) ICT を活用した工夫ある授業作りの推進</p> <p>(2) 組織的な授業改善の推進</p>	<p>(1) ・感染症対策を継続しながら、本校生徒の実態をふまえたうえで、学習内容に対して達成感を持たせることができるように、1人1台端末の効果的な活用、主体的・対話的な視点に基づく学習活動などを行う。そのことを通して、工夫ある教科指導による授業づくりに取り組む。</p> <p>(2) ・新学習指導要領を踏まえて「観点別学習状況評価」を進めるとともに、授業研究委員会を核として授業実践に向けた教員研修の実施や、授業見学及び研究協議を充実させ、生徒の学習活動に関する課題を教員が共有化することにより、同僚性を活かした授業改善を図る。</p>	<p>(1) ・生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」を85%以上にする。[87.7%]</p> <p>(2) ・教職員向け学校教育自己診断「指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある」を77%以上にする。[76.7%]</p>	<p>(1) ・「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定回答は82.8%と目標値に至らなかったが、生徒端末を活用しながら一斉学習、個別及び協働学習を組み合わせ工夫ある授業づくりを組織的に進めた結果、生徒向け授業アンケートにおいて全項目で評価が向上し過去最高値となった。(○)</p> <p>(2) ・授業見学や研究協議など同僚性を活かした組織的な授業改善が定着してきた。「指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある」の肯定回答は92.6%と10%以上向上した。(◎)</p>
2 多様な進路の実現	<p>(1) 生徒の実態に即した、早期に目標を意識させることによる多様な進路指導の充実</p> <p>(2) 図書館を活用した教育活動を推進し幅広い教養を育成</p>	<p>(1) ・外部講師等による進路講演会の実施や就職支援コーディネータの活用、内定者指導、進学講習など、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学、医療看護系、就職関係など個々の進路に応じた個別講習を実施する。 ・漢検、英検、パソコン検定の受検を促進する。 <p>(2) ・図書館を整備し、図書館を活用した教育活動を行う。</p>	<p>(1) ・一般入試まで頑張って第1志望にチャレンジする生徒数の増加をめざす。[6名]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する講習参加者に関して同水準を維持する。[91名] ・各種検定受検者数の前年度増をめざす。 [英検8名、パソコン検定44名] <p>(2) ・教職員向け学校教育自己診断「この学校では、図書館が生徒に活用されている」を50%以上にする。[48.8%]</p>	<p>(1) ・第一希望の進路実現に向け、12名の生徒が一般入試までチャレンジした。今後も早期に目標を意識させ最後まで粘り強く努力できる生徒の育成を図る。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路別講習の参加者は144名だった。昨年度より新たに公務員講座を開講し、警視庁をはじめとする公務員試験に複数名合格した。(◎) ・英検は13名、パソコン検定は42名が受検した。今年度は1年生対象に校内タイピング大会を実施し、各種検定への意欲喚起につながった。(○) <p>(2) ・図書整備と更新を行うとともに、授業においても図書館の活用を積極的に行った結果、「この学校では、図書館が生徒に活用されている」の肯定回答が70.4%と20%以上向上した。(◎)</p>

府立堺上高等学校

<p>3</p> <p>社会に貢献する人材の育成</p>	<p>(1) ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上</p> <p>イ 個々への支援体制の強化</p> <p>(2) ア 特別活動や部活動の活性化</p> <p>イ 地域や小中学校などとの連携を通して自尊心とボランティア精神を育成</p>	<p>(1) ア・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続しつつ、個々のケースの原因の解決にあたることにより、遅刻数の減少に取り組む。</p> <p>・進路実現などとも関連させて、服装等身だしなみの指導を強化する。</p> <p>・大阪府の自転車条例をふまえ、自転車事故防止やマナー向上のための講習会を警察等と連携して実施するとともに、駐輪指導をはじめとする自転車関係の指導を強化する。</p> <p>イ・SCとSSWを活用した教育相談体制を充実させ、個々のケースに迅速に対応できる能動的な組織の確立に努め、外部機関との適切な連携を図る。</p> <p>(2) ア・感染症対策をはじめ体育大会や文化祭等の学校行事のあり方に工夫を加えて、生徒の学校生活の充実を図る。</p> <p>・入学後の体験入部等の実施方法を充実させて、1年次の加入率を上げる。</p> <p>イ・「堺上高杯」を組織的に実施し、地域の学校との連携を深めることを通してマネジメント力を高めるとともに、自己肯定感を醸成する。</p> <p>・堺市西区地域と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動を行う。</p>	<p>(1) ア・遅刻統計の総数で前年度(5850回)の10%減をめざす。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断での生活規律等基本的習慣の指導確立の項目について同水準を維持する。[86.6%]</p> <p>・自転車事故報告件数について、0件をめざす。[5件]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目における満足度について78%以上をめざす。[78.3%]</p> <p>(2) ア・生徒向け学校教育自己診断の行事満足度を78%以上にする。[77.7%]</p> <p>・1年次の加入率50%以上をめざす。[46.5%]</p> <p>イ・「堺上高杯」を計画的かつ組織的に実施し、昨年度と同水準の中学生の参加をめざす。[31校600名の参加]</p> <p>・清掃活動等、各クラブにつき1つのボランティア活動を行う。</p>	<p>(1) ア・遅刻回数による段階指導と個々の生徒への支援体制を充実させた結果、目標とする10%減には至らなかったが遅刻総数は年々減少傾向にある。遅刻統計総数は5729回と前年度比2%減となった。(△)</p> <p>・教育自己診断の肯定回答は83.2%と目標値に至らなかったが、社会的な人間力を育成するにあたり、継続して生活規律等基本的習慣の確立に向けて指導を行っていききたい。(△)</p> <p>・自転車事故報告件数は3件だった。今後も地域の警察と連携を図りながら、継続して自転車関係の指導強化を図りたい。(△)</p> <p>イ・教育自己診断の肯定回答は76.9%と目標値にやや至らなかったが、コーディネータを中心とした体制が確立し、課題を抱えた生徒について、タイミングを逸することなく適切なアプローチの実行が可能となってきた。今後も急増する教育相談に対して、生徒の状況把握を共有し個々のケースに迅速に対応できる体制の強化を図っていききたい。(○)</p> <p>(2) ア・体育大会や文化祭をはじめ学校行事のあり方に工夫を加えて、生徒の学校生活の充実を図ることができた。教育自己診断は79.5%だった。(○)</p> <p>・体験入部等の実施方法を充実させた結果、1年次の加入率は54.7%と前年度比8.2%増となった。引き続き部活動の活性化に取り組みたい。(◎)</p> <p>イ・本校主催の「堺上高杯」を開催し地域の中学校との連携を大いに図ることができた。雨天で中止となったクラブもあるが、延べ40校から約750名の中学生の参加があり、本校生徒の自己肯定感の醸成にもつながった。(○)</p> <p>・清掃活動を中心に校舎周りを中心に活動を行った。次年度は地域の行事にも参加予定。</p>
<p>4</p> <p>校内運営体制の改善と人材の育成</p>	<p>(1) ICTの活用による業務の効率化と情報の共有を推進</p> <p>(2) 教員の教育力育成</p>	<p>(1)・校内ネットワークを活用し業務の効率化を図るとともに、教科内での教材の蓄積と共有を推進する。</p> <p>・一定時刻以降の業務申告制を毎日実施し、一人ひとりが勤務時間管理や健康管理に取り組む。</p> <p>(2)・職員研修や独自のミーティングを実施して分掌業務や担任業務などに関する教員の教育力の向上を図る。</p> <p>・感染症に係る対応や人権研修等の教職員研修の実施に際し、外部講師を積極的に招聘するなどして、生徒の自他尊重の精神向上に結びつく等、学校の実情に即した内容となるよう創意工夫を行う。</p>	<p>(1)・ICTを活用して事前の資料提示とペーパーレスで職員会議を行う。</p> <p>・1か月の時間外在校等時間が80時間を越える教職員の延べ人数を29人以下にする。[29人]</p> <p>(2)・定例の職員研修以外に独自の「SKミーティング」を3回以上実施する。[3回]</p> <p>・教員向け学校教育自己診断での校内研修の教育実践有効性を問う項目で同水準の維持をめざす。[95.3%]</p>	<p>(1)・職員会議資料の完全ペーパーレス化は定着済み。欠席連絡はメールやフォーム作成ツールを活用し業務の効率化を図った。</p> <p>・時間外勤務月80時間以上の延べ人数は32人となった。引き続き、面談等を行い働き方改革に即した労働時間の適正化を図っていく。(△)</p> <p>(2)・今年度の「SKミーティング」も内容を精選し3回の実施とした。首席を核に学年間の連携をはじめ初任者等の経験の少ない教員の悩みや疑問の解決への道筋をつけることができ、学びの多い取組みとなっている。教育自己診断「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」の肯定回答が92.6%と昨年(83.7%)より向上した。(○)</p> <p>・「生徒理解と支援」「貧困問題」などをテーマに外部講師をお招きして職員研修を実施。また、生徒の情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、ICTの効果的な活用に係る研修を実施し、教職員のICT活用指導力の向上を図った。いずれの研修も本校の課題に即した内容で、職員間で認識を深めることができ、今後の教育活動に生かせるものであった。教育自己診断「校内研修の教育実践有効性」は92.6%。(○)</p>

府立堺上高等学校

<p>5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進</p>	<p>(1) 広報活動の充実と中学校との連携推進</p> <p>(2) 保護者への積極的な情報提供と学校理解に結びつく PTA 活動の充実</p>	<p>(1) ・新着情報、フォトギャラリー等ホームページの内容を充実させることで、タイムリーに情報を発信し、本校の教育活動についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外、校内の学校説明会に全教職員が参加し、広報活動をより充実させる。 ・出身中学校に対しての広報に努めるとともに、3月に新入生の状況把握を行い個別の支援の一助とする。 <p>(2) ・メール配信等により保護者へ迅速かつ適切な情報提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やPTA活動に積極的に関わっていただくことを通して、保護者の本校への理解を深めていただく。 	<p>(1) ・本校 HP のアクセス数 80000 件をめざす。[71935 件]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会参加者数の前年度増をめざす。 [324 名] ・出身中学校と連絡を取り、資料の配付をするとともに生徒の状況把握を行う。 [11月～2月 55 校、3月 29 校] <p>(2) ・保護者向け学校教育自己診断で進路に関する情報提供を問う項目について前年度増をめざす。[57.0%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 主催の研修参加率について、定員の 68 % 以上をめざす。 [67.5%] 	<p>(1) ・アクセス数は57049件。学習支援クラウドサービスを活用し、生徒端末に連絡等すべて直接配信しており、本校生徒のアクセス分が少なくなったと分析している。今後は、対象をしぼった発信の在り方を検討していく。 (R1 : 35857件、R2 : 80603件) (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の進学フェアや8月の大阪南エリア公立高等学校等合同説明会に加えて、本校を会場に11月、1月、2月に学校説明会を開催した。校内の学校説明会の参加者数は344名と昨年度より増加傾向にある。引き続き、本校への関心を高めていく。(○) ・6月の中高連絡会に加えて11月から2月にかけては広報活動を中心に、3月には新入生の状況把握を中心に中学校を訪問し連携を図った。 [11月～2月 50 校、3月 28 校] (○) <p>(2) ・教育自己診断の肯定回答は 59.2%とやや増加した。引き続きメール配信やHP等により保護者へ迅速かつ適切な情報提供を行っていく。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭では3年ぶりに PTA の模擬店が出店され、学校行事にも積極的に関わっていただいた。3年ぶりにPTA 一日研修を実施したが、研修参加率は 55.7%と目標値には至らなかった。より参加しやすい企画を検討し活動の充実を図っていきたい。(△)
------------------------------------	---	---	--	--